支部通信

日本山岳会山梨支部 第3期第7号 令和2年(2020)3月20日

還暦を迎えた木暮祭

木暮祭は日本山岳会第3代会長で、奥秩父の開拓者である木暮理太郎を顕彰する碑前祭である。今回 が第60回の開催、還暦を迎えたことになる。大変息の長い行事になった。

木暮祭の前日(10月19日)に、みずがき山リーゼンヒュッテで交流会が開かれた。山梨支部会員が「奥秩父の先駆者・木暮理太郎と金山を囲む山々」と題するミニ講演を行い、木暮の生地・群馬県太田市の「木暮理太郎翁の足跡を語り継ぐ会」事務局長が、会の活動の様子を報告した。懇親会では、県内外からの参加者が、木暮祭の歴史や木暮理太郎の足跡などを語り合いながら、和やかなひとときを過ごした。

翌20日は、前日の雨が上がり爽やかな秋晴れとなった。金山の南に立つ向山(五里山)に記念登山。20名が参加し、秋の奥秩父西端の風致を味わった。

木暮祭は午後から開催された。木暮碑委員会を構成する三団体(増富ラジウム峡観光協会、山梨県山岳連盟、日本山岳会山梨支部)の代表があいさつ。木暮碑に献酒・献花したのち、金峰山を見上げる碑を囲んで記念撮影を行い祭は終了した。この後、増富ラジウム峡観光協会による恒例の「ほうとうを楽しむ会」が開かれた。秋晴れ

観光協会による恒例の「ほうとうを楽しむ会」が開かれた。秋晴れ の金山平で甲州名物のほうとうに舌鼓を打ちつつ、木暮祭がこれからも長く歴史を重ねていくために、 木暮理太郎の功績と祭の意義を正しく伝えていくことの重要性を確かめ合った。 (矢﨑茂男)

第5回 登山基礎講座を開催

山の日制定記念事業として 2015 年に開講した「やまなし登山基礎講座」は、その後毎年開催して 5 年が経過した。5 年間の受講生は 136 名(オープン講座における一般参加者は除く)で、この講座の目的である安全登山と登山の知識普及に努め、併せて日本山岳会への入会を勧めてきた。

現在山梨支部員70名中、8名はこのやまなし登山基礎講座受講を受講した方々である。また毎月実施の支部山行について受講生に参加を呼びかけ、毎回複数人の参加者がいる。

講座内容は座学および登山実践であるが、講座受講生に講座内容などについて毎年アンケートを実施し、その結果などを勘案して第4回(2018年)および第5回(2019年)の講座では座学は夜間に開催したほか、実践登山の比率を高めた。

2019年度第5回講座の受講生に実施のアンケート結果の概要は以下のとおり。

(1) 講座全体の感想について

大変役に立った	12
役に立った	8
普通	0
あまり役に立たなかった	0
役に立たなかった	0
無回答	1

(2) 講座レベルについて

今回程度(初級編)	12
もう少し上のレベル(中級)	7
もっと高いレベル (上級)	0
無回答	1

(3) 講座内容について

今回同様で良い	9
登山知識・技術・実践登山だけでよい	3
講義に入れて欲しい分野・項目	文学、装備品等の詳細 3
無回答	5

(4) 講座数について

	講座日数	講座回数
増やしてほしい	2	3
丁度良い	18	17
減らしてほしい	0	0
無回答	1	1

(5) 日本山岳会について

①関心の有無について

大いにある	2
ある	10
もっと知りたい	1
どちらとも言えない	1
無い	0

②入会について

入りたい	0
前向きに考えたい	8
わからない	11
入りたくない	1
入りたくない	1

③山梨支部で実施の山行、行事などへの参加について

参加したい	4
内容によっては参加したい	16
わからない	1
参加したくない	0

実施アンケートの主な内容の集計結果は以上のようである、今後に向けての課題も見えなくもない。

そもそもこのやまなし登山基礎講座は初級者を対象、前提にした『登山基礎講座』ではあるが、受講生は 登山経験年数面からみると数年前から登山を始めたという初級者もいれば、山行歴 500 回以上というような 強者もいる。はっきり言えることはその大多数が山岳会未加入者(未組織登山愛好家)であって、登山につ いての指導訓練を受けていない方々である。特に本年の第5回の受講生は登山歴3年未満が9名、10年未 満が6名、10年以上20年未満が2名、20年以上1名というばらつきが著しく、この講座開始以来最も初 級者の割合が高かった。果たして講座内容を十分理解していただけたか、少なからず疑問が残っている。

講座終了後新たに入会した方、あるいは入会はしていないが支部山行に参加している方からは講座や本支 部に対するアンケートでは聴取しにくい貴重な意見などを聞いてきた。アンケートの結果は後々の講座計画 実施の参考にはなるが、今後受講生となる方々の意見ではないことは当然である。応募した受講生の構成等 を勘案してそれに相応しい講座内容を設定するなど、年度ごとの弾力的な対応の可否について、今後検討す ることが必要ではないかと考える。 (北原孝浩)

支部山行報告

【雨飾山】

■山行日:令和元年7月13日(土)·14日(日)

■地図:2万5千図「雨飾山」

■行程:<1日目>甲斐市総合文化会館-碌山美術館-大町山岳博物館-小谷温泉山田旅館 <2日目>山田旅館ーキャンプ場登山ローブナ平ー荒菅沢ー雨飾山山頂ー往路を下山ー山田

旅館にて解散

■参加者:小宮山千彰、大澤純二、大澤さな枝、遠山若枝、 山村正人、池田新郎、高橋みゆき、上田謙治、

河内幸子、黒沼英美、黒沼隆雄

雨飾という何とも美しい名前の山行に参加した。小谷村の山田 旅館に前泊しての、ぜいたくな登山となった。

美味しいお料理とお酒、素晴らしい温泉、皆さんの楽しいお話 で盛り上がり就寝。翌朝早くに窓を開けると雨がしとしと。天気 予報も雨だったので山行はあきらめるつもりが、リーダーの判断 でスタートをずらしてみた。これが大当たり。登山開始後山頂ま



で全く雨が降らず、無事登頂することができた。絶景と言われる眺望は真っ白なガスに包まれて見るこ とができなかったが、大勢でワイワイがやがやと登る登山は久しぶりだったので、とても楽しく想い出 に残る山行だった。

下山途中で、足がつって立ち往生していた若いカップルに会った。リーダーが荷物を持ってあげたり、他の皆さんがマサージをしてあげたりして下山を助けてあげたのは日本山岳会ならではの経験と実力があってのことだと感銘を受けた。

楽しく思い出多い山行だった。支部の担当の方々に心からお礼申し上げる。 (河内幸子)

【王岳】

■山行日:令和元年6月16日(日)

■地図:2万5千図「河口湖西部」「精進」

■行程:西湖根場いやしの里駐車場ー鍵掛峠-王岳頂上-西湖根場いやしの里駐車場

■参加者:渡辺峯雄、荻原賢司、大澤純二、遠山若枝、澁澤和子、山村正人、臼田昌美、池田新二郎

上田謙治、高野正明、渡辺秀子、石澤貴子、相川修、福田直樹、塩見麻衣子、三輪田桂子、 雨が降り続ける6月の半げ、王岳山行が行われる6月16日は奇跡のように晴れ渡った。

梅雨入りし、雨が降り続ける6月の半ば、王岳山行が行われる6月16日は奇跡のように晴れ渡った。 スタート地点の西湖根場いやしの里駐車場は、当日開催された西湖ロードマラソン大会のため人があふれ、お祭り気分に満ちていた。総勢16名の山行グループは、派手に炸裂する打ち上げ花火の下で、開始のミーティングを行った。富士山が、山頂に少し雲をまとって優美な姿を披露している。

マラソンの喧騒に別れを告げ、すれ違う人もいない静かな登山道を行く。木々の緑が輝き、山つつじに各所で出会い、時にはギンラン等高山植物に出会う。途上、一頭のカモシカが、しばらく山行グループを見つめていたが、皆が写真を撮り終わらないうちに、森の中に消えていった。



鍵掛峠を越え王岳山頂に向かう。峠を歩くと、風が心地よい。 富士山がところどころで、優美な姿をのぞかせている。それにしても、富士山は雄大でかっこいい。日本一の絵になる山だ。

王岳の広い山頂は、一行の貸し切りだった。南側が開けていて、 眺望が良い。富士山やふもとの樹海、西湖、山中湖などが見える。 天気も良いし、空が広く感じる。暫く景色を楽しんだり、写真を 撮ったりした後、ゆったり散らばって座り、昼食をとった。帰り は、ジグザグの登山路を、一気に根場駐車場へ下った。マラソン が終了し、静かになった駐車場隅の木陰で解散式を行う。

今回の山行は、山行のコース・集合時間を事前調査により一部変更された。この周到な準備が、登山の充実・安全につながったのだと思う。リーダーとサブリーダーに感謝の意を表したい。また、晴れ男、晴れ女がいるに違いない同行のメンバーの皆様にも、もちろんお礼を申しあげたい。 (池田新二郎)

【春日沢ノ頭】

■山行日:令和元年11月4日(月)

■地図:2万5千図「河口湖西部」

■行程:稲山ケヤキ森-西尾根-稲山-春日沢ノ頭-稲山-東尾根-稲山ケヤキの森

■参加者:長沢洋、大澤純二、大澤さな枝、荻原賢司、臼田昌美、俵一雄、渡辺秀子、名取邦子

春日沢ノ頭は、芦川北側稜線を縦走するときに通過するピークで、この山だけが目的にされることは少なかった。ところが 2000 年代に入って、山梨県森林文化の森の整備事業の一環で北麓にあるケヤキの群生地が『稲山ケヤキの森』として公園化され、ここを基点として周回できるハイキングコースも整備されて、それからはこの山目的のハイカーも現れたのである。

秋の好天の祝日だというのに、ケヤキの森の駐車場に我々以外の車はなかった。準備をするうちには1台がやってきて、結局山で出会ったのはこの車に乗っていた若者ひとりだけであった。

西尾根を登って東尾根を下るルートをとった。浅い沢筋をひとしきり登ってから西尾根に着くと、前年の台風による倒木が行く手をふさぐようになり、跨いだり迂回したりを何度も繰り返した。

西尾根と東尾根が合わさる場所が稲山とされており山名標も立っている。林が伐られており、意外なくらいに広い甲府盆地と、盆地を限る南アルプス北部、八ヶ岳、奥秩父の山並みが見渡せる。ここでいったん大休止としたのち、春日沢ノ頭へは広い尾根を登るともなく登っていく。

Asia de la constant d

登り着いた春日沢ノ頭からは稲山以上の展望があるはずだったのが、すっかり灌木が育っており、まるで眺めがなくなっていた。ここで昼休みとした。

下りにとった東尾根は、西尾根と異なり細かい分岐が多いので難しい。一般的なルートとするには更に道標が必要かと思う。下るにしたがって倒木が多くなり、通行不能で急斜面を無理やり下る場面もあった。やっと下り着いた登山口の標識に「通行禁止」の貼り紙がしてあった。さもありなん。(長沢洋)

【貫ヶ岳】

■山行日:令和元年11月24日(日)

■地図:2万5千図 「篠井山」

■行程:富士川クラフトパークー中沢公民館-焼山峠-貫ヶ岳-平治の段-中沢峠-矢ロー

中沢公民館

■参加者:磯野澄也、北原孝浩、大澤純二、大澤さな枝、荻原賢司、山村正人、池田新二郎、

臼田昌美、高橋みゆき、河野泰、上田謙治、高野正明、雨宮千鶴子、藤本むつ巳

山梨県最南部の山々は標高は低いが、高低差がある分、山は大きい。全般的に登山者が少なく静寂である。また静岡に近いため大きな富士山や駿河湾の風景が楽しめる。

曇天の中、中沢公民館に集結し脇の登山道から登る。いきなり山ヒル注意の看板。5月から10月までは注意を要する。竹林がきれ、連続したスギ・ヒノキの植林地の尾根を登る。林業の盛んな地域である。焼山峠から897mの貫ヶ岳に着く。標高差630m、2時間半がかりである。

貫ヶ岳からは焼山峠へ戻り、アセビの生い茂る尾根道を南下し50分程で展望台へ着く。天候は回復し、富士山・愛鷹山・伊豆半島・駿河湾が眼下に広がり、その景観に一同歓声があがる。更に40分ほど南下し平治の段に着き昼食。ここまでは全てハッピーの声。

南東の県境の尾根を忠実に下る。一部不明瞭なところもあり、1時間20分ほどで中沢峠着。標識に矢口登山口までは45分とあった。数年前に一緒に行った仲間



が下山していること、山梨百名山でもノーマルルートになっており1時間程度で行けると判断した。しかし、下り口から登山道が不明瞭でルートファンディングを強いられる。慎重に下ること2時間、矢口まで標高差90mの地点で、右岸の大規模な流木による崩壊を確認。先般の台風19号の影響だろうか。試登するが危険と判断した。全員で方策を探る。既に16時半、メンバーの疲労状況等勘案し、安全面を優先して緩傾斜の尾根を標高差150mあまり高巻きすることとした。ヘッドランプで登るが、バテたメンバーもおり時間がかかる。尾根に出て暗闇の中で下山路を探り、地図通り慎重に下る。19時20分矢口登山口へ。全員無事下山に歓声が上がった。1時間弱の見込みに対し、実に4時間40分かかってしまった。20時20分中沢公民館に集結し解散した。

楽しい低山歩きのはずが暗転した。この山行の反省は別途支部に提出済みである。今後の支部 山行のあり方に反映させたい。 (磯野澄也)

【白山・片山】

■山行日:令和元年12月1日(日)

■地図:2万5千図「甲府北部」

■行程:緑ヶ丘スポーツ公園-湯村山-白山(八王子山)-片山-緑ヶ丘スポーツ公園

■参加者:長沢洋、渡辺峯雄、北原孝浩、荻原賢司、萩野有基子、末木佐登子、池田新二郎、大澤さな枝、大嶽ひろ美、川榮愛、渡辺秀子、三輪田佳子、名取邦子、御園生真美

甲府に山都の香りを漂わせるのは、南アルプスの名峰などもさることながら、市街地のすぐ北に迫った低い山並みがあるからだとも思う。

盆地を睥睨する北の高みに居城が築かれたことが甲府の始まりで、それには背後の山が天然の要害だったということもあろうが、湯村山や大笠山などで山中に大岩が累々としていたり、片山の石切り場の跡を見ると、岩の調達の便利ということもあったのではないかとも想像される。

甲府の北山でも、街のすぐ裏手に迫った片山や大宮山の良さを知ったのはしかし最近のことで、公園 化している山ならわざわざ行ってみることもないかと思っていた。ところが歩いてみれば、麓から雑木 林の残った山で、少々人工的だとはいうものの、春秋の桜と紅葉がことのほか美しいことも知って、以 来それらの季節にぶらっと出かけるのが楽しみになった。

支部山行では、片山の紅葉を愛でるのを主眼に 12 月初めの計画とした。車を使えばほとんど歩かず

に済む山域なので、麓の緑ヶ丘スポーツ公園から往復することにした。参加者は甲府近辺の人が多いが、灯台もと暗しで意外とすぐそ こに見えている山のことは知らないものである。

冷え込み厳しいがその分すっきりとした好天、ちょっと早いかと 思われた紅葉もほぼ盛りといってよく、しかも最初は雲の中だった 富士山が登るにつれすっきりと現れて、珍しい笠雲や吊るし雲の出 現とあいまって、これはすばらしいと参加者からは感嘆しきりの 1 日であった。



湯村山や白山(八王子山)あたりでは日曜日とあってそこそこの人影もあったが、不思議なことに片山には誰もおらず、14人の大所帯が誰気兼ねなく紅葉と富士の絶景を堪能したのである。 (長沢洋)

【八頭山】

■山行日:令和2年1月19日(日)

■地図:2万5千図「韮崎」

■行程:武田八幡宮-八頭山-白山城-武田八幡宮

■参加者:荻原賢司、高野正明、磯野澄也、渡辺峰雄、大澤純二、大澤さな枝、池田新二郎、萩野有

基子、臼田昌美、高橋みゆき、黒沼恵美、黒沼隆雄、黒沼陽斗

孫を連れて初めて山に登ったのは、彼が4歳の時だ。富士山須走五合目から小富士まで幻の滝が現れる5月、残雪に足を取られ、靴もズボンもびしょ濡れの登山だった。「もうお山来ないからね!」と孫に泣き言を言われながら歩いた懐かしい思い出である。あれから4年、彼は小学2年生になった。年に2、3回機嫌のよい時に低山やロープウエイで登れる百名山に連れて行っている。

私は縁があって、昨年秋に山梨支部に入会した。新年1回目の支部山行が韮崎市の八頭山との案内があり、孫も同行させていただいた。八頭山は低山ながら、痩せ尾根、急登、藪漕ぎとバラエティに富ん



だ山だとのこと。リーダーが用意してくれたハーネスとヘルメットを装着し万全の対策を取って、朝 9 時に出発した。急傾斜を苦戦しながら登り、やれやれと思っていたら次は痩せ尾根の連続。孫は「怖い怖い」と言いながらも、皆さんにサポートしてもらい無事に通過した。その後も要所要所で「大丈夫か?」と励まされ、「すごいなあ」と褒めてらい、メンバーの皆さんの温かい応援があって頑張れたようだ。

いくつもある偽ピークにがっかりしながらやっと到着した山 頂。朽ち果てる寸前の看板を背にして写真を撮った後は、明る

い森の中でわいわい談笑しながらお昼ご飯を食べた。そして下山。低木の枝の下に潜り込んだり、滑りやすい傾斜地を神経を使ったりしながら下った。

登り応えも下り甲斐もあるハードな山。藪を攻める楽しさを味わうことができた山行だった。リーダーはじめ、メンバーの皆さんには本当にお世話になった。可能であれば、再び孫を連れての参加をお願いしたいと思う。 (黒沼恵美)

中部ブロック交流会in越後

「第9回日本山岳会中部ブロック交流会」(越後支部主管)が令和元年6月8・9日に、新潟県妙高市池の平のパークロッジ関根と笹ヶ峰夢見平で開催された。山梨支部からは4名が参加した。

8日朝、萩野有基子さん運転の車で古屋寿隆さん、大澤純二さん、それに内藤が乗って、妙高高原ICを目指した。会場の妙高池之平のパークロッジには13時頃到着した。14時半に開会式が始まり、桐生恒治越後支部長の挨拶と3県の支部代表から各支部の現況報告があった。続いて妙高高原ビジターセンター館長・越後支部会員の春日良樹講師による「登山者に出来ること〜妙高高原ビジターセンターの環境保全の取り組みから〜」と題する講話があった。ビジターセンターの活動状況、妙高火山の形成史と妙高戸隠連山国立公園の誕生、フランスギク・オオキンケイソウ等の外来種の問題と駆除、雷鳥の生息地(火打山、焼山、金山)での生態学研究の必要性、次の世代に自然景観を残す取り組み等、自然保護活動を日々行っている現場の問題点や苦労が、わかりやすく具体的に解説された。

二日目は妙高笹ヶ峰夢見平トレッキング。ロッジ前で記念写真を撮影して、乙見湖(笹ヶ峰ダム)休憩舎前の駐車場に向かった。9時過ぎに2班に分かれ夢見平トレッキングに出発した。笹ヶ峰ダムサイト

を渡り急な階段を上ると平坦な道に出た。ミズナラやブナが多く、木々の間からはダムの向こうに残雪の焼山、火打山が望めた。稲荷神社前の大きなミズナラの御神木「神彦」「道姫」を過ぎ、しばらく行くと唯一の水場「夫婦泉」があり休憩。遊歩道端にはマイズルソウやエンレイソウが咲いて、シラネアオイ、リュウキンカも見ることができた。白樺林を下って夢見平に出ると、湿原の向こうに三田原山越しに火打山が望めた。湿原からはズミ (コナシ)のトンネルを潜って、朝通ったブナの大木のある平坦な道に出た。

階段を降りてダムサイトに戻った。駐車場で宿の美味しい弁当を食べた後、13時に閉会式を行い解散となった。17時に帰甲。充実した2日間だった。 (内藤順造)

レインジャー活動報告

2019 年度山岳レインジャーは登録者 11 名でスタートしたが、実施日程などの関係で実際は 5 名(延人員 11 名)で実施した。

毎年同様な山岳レインジャーを実施しているが、実施時期が仮に同じでも残雪状況、降雨、気温状況などの天候に左右されて、調査対象高山植物の生育状況(蕾、開花、結実など)は様々である。2018年7月13日に、われわれ JAC 山梨支部チームが発見した「キタダケテンダ」は県内山岳界で大ニュースとなったが、今年は実査観察担当時期が7月2日、かつ形態が「定経路①」担当で再確認が出来なかった。2020年度にはキタダケテンダが観察できる7月中旬以降・定経路②に担当割り当てられれば再観察したい。

過去数年、台風襲来回数が増え、山岳環境への被害も甚大である。これは偏に地球温暖化の影響によるものと言われている。2020 年度の山岳レインジャーでは過去に観察した高山植物が無事に生育している姿に再会できることを切に願うものである。

山梨支部担当の実施状況

実施日	山域 (形態)	参加人数(参加者)
6月23日~24日	甲斐駒ヶ岳・仙丈ヶ岳(探索)	2名(大澤・池田)
7月1日~2日	白根三山(定経路②)	4名(北原・大澤・池田・臼田)
7月 25 日 ~ 26 日	鳳凰三山 (探索)	5名(北原・大澤・渡辺・池田・臼田)

(北原孝浩)

『甲斐百山』の発刊に寄せて

立ち消えになりそうな感もあった企画が 10 余年を経て書物になった。初めから関わった者として感慨無量である。

ことの発端は、2009 年初頭の委員会での深沢元委員長の次のような提案だった。「『山梨百名山』の発刊から10年過ぎ、読者からの要望もある。『山梨百名山』の続きとして新たに100山を選定し、山梨

二百山の名で支部設立 65 周年記念事業として発刊したらどうか」。同年の総会で承認されたのち、選考委員会を組織。委員長は故坂本桂さんにお願いし事務局は私が担当した。選定基準は山梨百名山に準ずることとして、県内 200 数十山の中からアンケートの結果 140 山を候補として選んだ。支部員各位の協力のもと、2010 年から踏査を始め、2012 年末には再踏査を含めて 137 山の踏査を終えた。

最終 100 山の選定にあたっては、内藤順三さんに選定委員長をお願いした。委員会での最終決定を受け、改めて規格に沿った原稿の執筆を依頼したが、65 周年には間に合いそうもなく、また当初検討された商業出版の可能性もなくなったため、『甲斐山岳』別冊として 70 周年記念事業の柱とすることになった。

その後も停滞期間はあった。が、二転三転した題名も「甲斐百山」と 決まり、支部の総力の結集としてこのような立派なものに仕上がった。 ご協力くださった方々には、改めて感謝申し上げる。



この 10 余年の間に、当初から委員としてご協力いただいた高室陽二郎さん、委員長を務めて下さった坂本桂さん、10 数山を担当下さった山本紘典さんのお三方が、「甲斐百山」の上梓を見ずしてご他界なされたのはかえすがえすも残念なことである。墓前に、発刊のご報告をしたい。 (遠藤靖彦)

『甲斐百山』の増刷について

特別会費・寄付金をいただき編集を進めてきた『甲斐百山』は、支部創立 70 周年事業企画として令和元年 12 月 15 日に発刊した。会誌『甲斐山岳』にならい、会員・本部・各支部などに配本した他、県山岳連盟加盟団体はじめ支部との関係が深い団体や個人に贈呈。残部はアウトドアショップ・エルクなどを介して市販した。この結果、12 月中には作成した 400 部がほぼ底を突いた。

1 月以降、雑誌「山と渓谷」、新聞各紙、JAC 会報「山」などで取り上げられることが想定され、多くの注文・問い合わせが見込まれたため、数回の臨時理事会を開いて対応を協議した。その結果、①支部創立 70 周年事業は終了とし、新規事業として増刷すること、②増刷部数は 300 部とすること、③令和 2 年度総会での承認を経て経費を支払うことを決定した。

第二刷り300部は2月4日に発行。今回も販売は極めて好調で、2週間ほどで完売に近い状態になった。図書館は返却待ち、増刷の問い合わせも多い。このため臨時の書面理事会により再度の増刷を検討した結果、500部の増刷を決定した。第二刷りと併せ、総会で承認を得ることとした。

なお本書に記載された内容は、数年前の踏査に基づくものもあるため、現状と異なるとの情報提供も寄せられている。今後、状況が大きく異なっていることを確認した場合は、随時ご連絡をいただきたい。ホームページ等で最新状況を発信したいと考える。 (矢﨑茂男)

理事会報告

- ●理事会・総会など(議題ほか) 平成31年(2019年)
- 4月10日 臨時理事会(第5回やまなし登山基 礎講座、『甲斐百山』登山地図作成)
- 4月20日 理事会(登山基礎講座、定時総会議案)
- 4月20日 定時総会(平成30年度事業報告・決算、平成31年度事業計画・予算)

令和元年(2019年)

- 5月14日 理事会(支部山行の課題、登山基礎 講座、「甲斐山岳」11号進捗状況)
- 5月23日 「甲斐山岳」緊急編集会議(「甲斐山岳」11号は6月発行、『甲斐百山』は特集号として後日発行)
- 6月12日 理事会(支部通信、「甲斐山岳」11号、『甲斐百山』特集号、木暮祭)
- 7月10日 理事会(登山基礎講座、支部山行の 課題、『甲斐百山』)
- 8 月 9 日 登山基礎講座準備会(講座運営、講 義内容確認)
- 9月11日 理事会(登山基礎講座、第60回木暮祭、『甲斐百山』)
- 10月9日 理事会(登山基礎講座)
- 11月12日 山行委員会(2020年1~3月、2020年度支部山行計画)
- 11月13日 理事会(登山基礎講座、『甲斐百山』 発行)
- 12 月 11 日 理事会(登山基礎講座総括、11 月 支部山行貫ヶ岳の反省、2020 年支部山行計画 承認、『甲斐百山』発行、支部通信)
- 12月27日 緊急理事会(『甲斐百山』増刷) 令和2年(2020年)
- 1月15日 理事会(来年度事業計画・予算、『甲

斐百山』増刷)

- 1月24日 臨時理事会(『甲斐百山』増刷、11 月支部山行貫ヶ岳の反省)
- 2月12日 理事会(支部山行、日本列島古道踏査案)
- 2月21日 山行委員会(支部山行の課題)
- 3月11日 理事会(定時総会議案、『甲斐百山』 増刷)

●支部行事など

平成 31 年 (2019 年)

- 4 月 7 日 支部山行(高川山・大月市/都留市) 11 名(会員外 5 名)
- 4月21日 支部山行(茅ヶ岳・北杜市/甲斐市) 13名(会員外7名)
- 4月21日 第38回深田祭(韮崎市・記念公園) 令和元年(2019年)
- 5月19日 第2回田部祭(山梨市・田部重治文 学碑前)
- 5月19日 支部山行(西沢渓谷・山梨市)10名 (会員外1名)
- 6月8・9日 JAC 中部ブロック 4 支部交流会 (越後支部担当、妙高池の平温泉泊/妙高笹ヶ峰 夢見平トレッキング) 46名(山梨支部4名)
- 6月16日 支部山行(王岳·富士河口湖町/笛吹市/甲府市)16名(会員外6名)
- 7月7日 支部山行(尾白川渓谷・北杜市) 11 名(会員外6名)
- 7 月 13·14 日 支部山行 (雨飾山・長野県/新潟県) 11 名 (会員外 3 名)
- 8 月 18 ~ 20 日 支部山行 (穂高岳・長野県/ 岐阜県) 9名 (会員外 3名)
- 10月19・20日 第60回木暮祭(祝賀会・北杜市

みずがき山リーゼンヒュッテ、碑前祭・北杜 市金山)

- 10月20日 支部山行(向山・北杜市金山)19 名(会員外4名)
- 11 月 4 日 支部山行(稲山-春日沢の頭・笛吹市)8名(会員外3名)
- 11月24日 支部山行(貫ヶ岳・南巨摩郡南部町) 14名(会員外2名)
- 12 月 1 日 支部山行(湯村山-八王子山-片山 ・甲府市) 14 名(会員外 6 名)

令和2年(2020年)

- 1月19日 支部山行 (八頭山・韮崎市) 13名 (会員外2)
- 2月9日 雪山講習(入笠山・長野県富士見町) 中止
- 3月1日 雪山講習(北横岳·長野県茅野市) 中止
- ●第5回やまなし登山基礎講座 2019 (全8回、9月3日~11月10日) 受講生28名
- 第1回 9月3日 Aオリエンテーション、B山 梨の登山史と日本山岳会、C山の気象と観天 望気
- 第2回 9月17日 A山に入る前に(登山計画、 山岳保険)、B夏山登山総合(安全登山、装備 ・服装・食料、自然保護)
- 第3回 9月24日 Aロープワークの基本、B 地図の読み方
- 第 4 回 9 月 29 日 総合実践登山1 (瑞牆山)
- 第 5 回 10 月 1 日 A 山梨の山岳遭難の現状と 対策、B けが・病気などの応急処置
- 第6回 11月7日(10/13の予定を延期) 総合実 践登山2 地図の読み方・セルフレスキュー (茅ヶ岳)
- 第 7 回 10 月 26 ~ 27 日 総合実践登山 3 (硫 黄岳、硫黄岳山荘泊)
- 第8回 11月10日 総合実践登山4 地図の読 み方・セルフレスキュー復習(八人山)

- ●山梨県山岳レインジャー活動 令和元年(2019年)
- 6月23・24日 甲斐駒・仙丈、探索調査(黒戸尾根~七丈小屋)、大澤純二ほか1名
- 7月1・2日 白根三山、定経路②調査(二俣〜白根御池小屋〜草スベリ〜北岳山頂)、北原孝浩ほか3名
- 7月25·26日 鳳凰三山、探索調査(白鳳峠〜地蔵ヶ岳〜観音ヶ岳〜薬師岳)、北原孝浩ほか2
- ●機関誌発行(『甲斐山岳』、「支部通信」) 令和元年(2019年)
- 6月18日 支部通信 第3期第6号
- 6月28日 『甲斐山岳』第11号(創立70周年記 念号)
- 12月7日 『甲斐山岳』第11号別冊「甲斐百山」 初版1刷400部

令和2年(2020年)

- 2月10日 『甲斐百山』2刷訂正版増刷300部
- 3月11日 『甲斐百山』3 刷増刷 500 部
- 3月20日「支部通信」第3期第7号
- ●平成31年度・令和元年度 会員異動

入会 令和元年

- 6月 会員番号 16499 窪田 光一
- 6月 会員番号 A0243 上田 謙治(準会員)
- 7月 会員番号 A0251 高橋みゆき (準会員)
- 8月 会員番号 A0259 黒沼 英美(準会員)
- 11月 会員番号 16553 勝倉 修一
- 12月 会員番号 A0297 河内 幸子 (準会員)

退会 令和元年

- 6月 会員番号 12209 石垣 武久
- 7月 会員番号 5024 日本 伸

死亡

平成 31 年 4 月 会員番号 8561 河阪 一造 令和 2 年 1 月 会員番号 12430 若月 昇

(大澤純二)

★/ 編集後記

- ※「支部通信」第3期第7号をお届けします。『甲斐百山』発刊に伴う支出削減のため、令和元年度の「甲斐山岳」発行を見送りました。しかし今年度の事業経過(約2000字)を記録する必要から、ページ数増、単色印刷によって経費を捻出しました。ご了承ください。
- ※各種原稿、随時ご送付ください。「支部通信」「甲斐山岳」は、会員の山への思い・取り組み についての自由な表現の場です。敷居は高くありません。

住所: 408-0114 山梨県北杜市須玉町藤田502 TEL: 090-7734-2788 Eメール: yazaki-s@taupe. plala. or. jp 広報担当 矢崎茂男